

広瀬 寛人

〔ふらの未来の会〕

移住定住者のフォロー体制は

問 フォロー体制と移住者の視点をまちづくりに生かす考えは。

答 本年度は、移住されて5年を経過した人を対象に移住後のプロセスについて意見交換を行い、個別ニーズを掘り起こす中で問題点を整理し移住促進の充実に努める。今後は、更に移住者へのアンケート調査を行う。移住者からの視点により、あらためて気づかされる富良野の魅力や課題もあり参考とすべきものは、まちづくりに反映したい。

市有施設貸与の検証と更新作業は

問 喫茶ギャラリー・あかならの運用評価と支援体制としての修繕料などの経費分担の考え方は。

答 観光客には富良野の思い出



喫茶ギャラリーあかなら

の場所として、市民には音楽・芸術・作品展示など文化活動の拠点として活用され一定の効果があがっていると考える。施設は昭和57年建築で32年を経過し修理・営繕を要する箇所が増加傾向にあるので指定管理者の費用負担区分をそのまま運用するのではなく、普通財産としての当該施設の実態を勘案して個別に対応したいと考える。

問 再募集及び更新契約の今後の予定は。

答 当該施設の利用希望がある場合には、今後についても貸付を検討していくが、その際には庁内貸付検討委員会で募集要項を整理して公募、貸付者を決定する手続きを考えている。

小林 裕幸

〔ふらの未来の会〕

公営住宅の充実は

問 公営住宅入居者の選考で、現在の一律抽選方式を、収入区分等の困窮度等を考慮した抽選方法の検討は。

答 高齢者並びに障害者世帯等に対しては、管理特定目的住宅70戸を通常の世帯と区別して、抽選の配慮をしている。これら以外の世帯は、収入が入居基準以内の方で、住宅困窮度に順位付けは困難であり公平さの観点から（平成10年4月から）一律抽選方式を採用している。

問 公営住宅の多様なあり方として、民間賃貸住宅及び空き家を活用する施策の検討は。

答 本市においては、現地建替え直接供給として公営住宅事業を進めている。今後、現行の事業に加え、民間住宅の利活用による高齢者・子育て世代の家賃補助制度など、「まちなか居住の促進」に向けた、総合的な住宅施策の検討を進める。



公営住宅

有害鳥獣駆除におけるハンターの養成は

問 安定した鳥獣被害対策実施隊員確保と隊員の養成の考えは。

答 農業被害は低減しているが、現在も被害継続の為、駆除対策の一層の拡充が必要と考える。今後も猟友会を通じ、新たな人材確保と技術向上の支援を継続したい。

問 技術向上と安全対策として、射撃訓練場設置の考えは。

答 射撃訓練は必要不可欠であるが、設置については、「指定射撃場の指定に関する内閣府令」の適合、教習及び訓練射撃指導員の配置、鉛汚染対策など、課題が数多くあり、現在のところ設置については考えていない。